

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 23 年 12 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

めだけ
女岳では、2011年10月までに確認されている地熱域に対応する融雪域が確認されました。ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意する必要があります。平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図2～8）

仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）では、14日に一時的に女岳から高さ50mの噴気を観測しました。

13日に、陸上自衛隊東北方面総監部の協力により実施した上空からの観測では、2011年10月までに確認されている女岳の山頂北部、北東斜面、北斜面、南東火口、北西斜面及び山頂付近の地熱域に対応する融雪域が確認されました。融雪域や地表面温度分布¹⁾から、新たな地熱域は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図9～11）

27日12時34分に女岳の西側2km付近を震源とするマグニチュード²⁾2.6の地震が発生し、仙北市田沢湖生保内上清水で震度1を観測しました。この地震の発生後、一時的に地震回数が増加しましたが、その後は収まっています。この地震による火山活動の高まりを示す現象は観測されていません。

火山性微動は観測されませんでした。

2) マグニチュードは地震の規模を示します。資料中の値は暫定値で、後日変更することがあります。

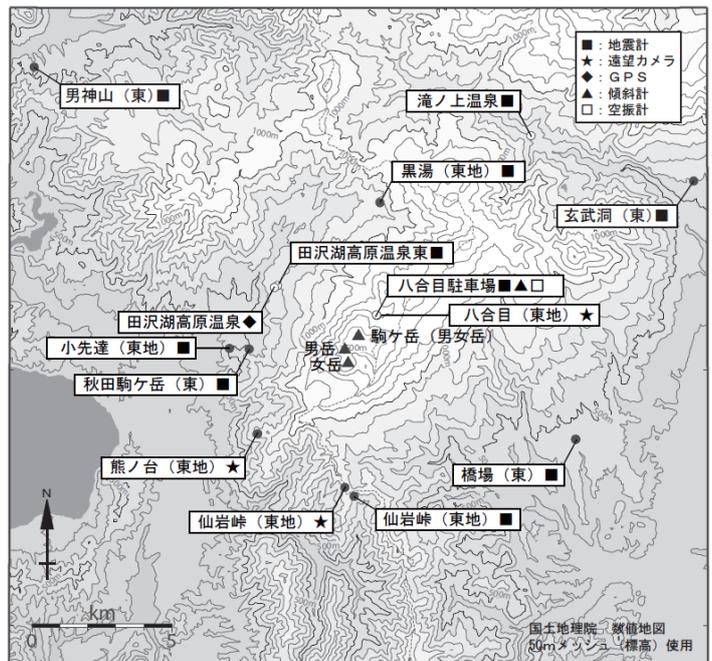


図1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

（小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。）

（東）：東北大学 （東地）：東北地方整備局

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成24年1月分）は平成24年2月8日に発表する予定です。

※この記号の資料は、気象庁のデータの他、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。また、同院発行の『数値地図25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平23情複、第492号）。



図 2※ 秋田駒ヶ岳 女岳からの噴気の様相（2011 年 12 月 14 日 11 時 14 分頃）
仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）による。
実線赤丸で囲んだのが、女岳からの白色噴気で高さは 50m。



図 3※ 秋田駒ヶ岳 日最大噴気の高さ（2010 年 4 月～2011 年 12 月）
熊ノ台（女岳山頂の南西約 5 km）及び仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置してある監視カメラ
（東北地方整備局）による。

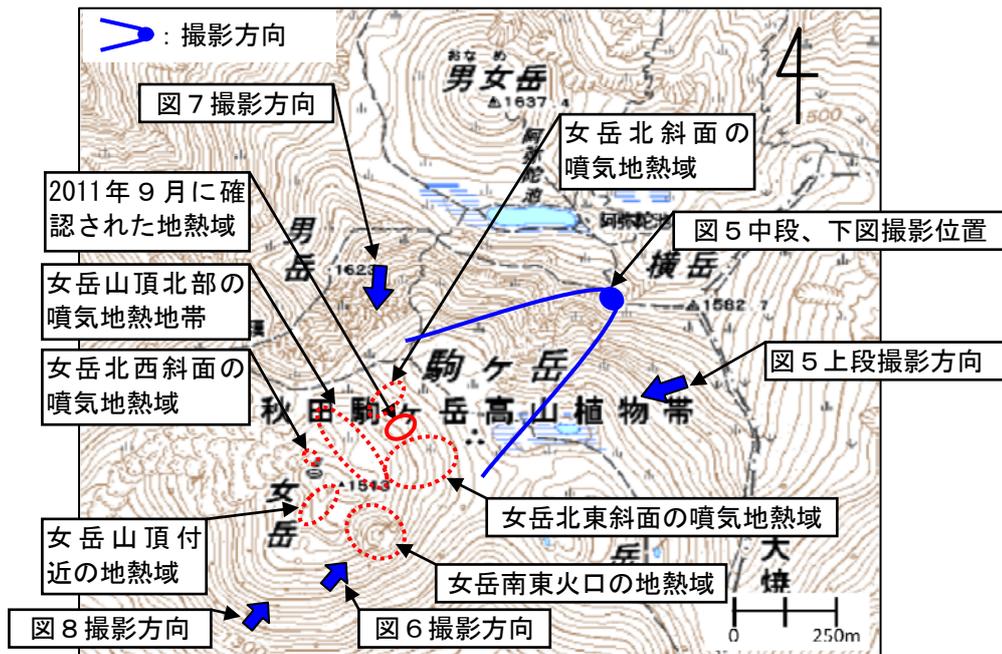


図 4 秋田駒ヶ岳 地熱域と図 5～8 の撮影位置
この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」を複製しました。

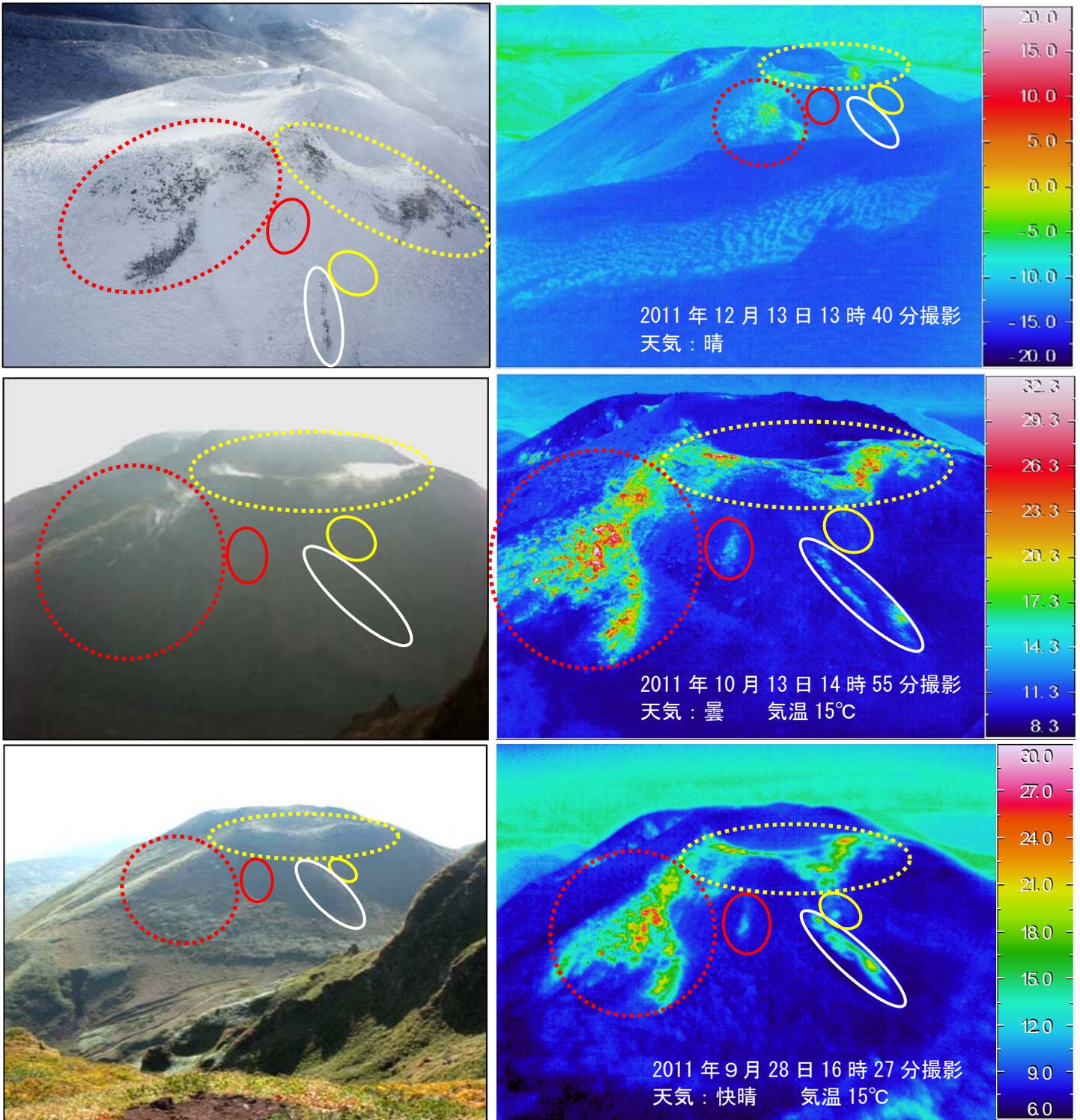


図5 秋田駒ヶ岳 女岳の可視画像 (左) と地表面温度分布¹⁾ (右)

上段：2011年12月13日撮影 中段：2011年10月13日撮影 下段：2011年9月28日撮影

- ・図の実線赤丸が、2011年9月に確認された北東斜面の地熱域で、今回、これに対応する融雪域が確認されました。
- ・図の実線黄丸が、2011年9月に確認された北斜面の地熱域で、2011年10月に明瞭ではなくなりました。
- ・図の破線赤色囲みの領域が、2009年8月に確認され、2010年12月にかけて拡大が確認された北東斜面の噴気地熱域であり、その後地熱域の広がり大きな変化は認められません。
- ・図の実線白色囲みの領域が、2010年9月24日に確認された北斜面の噴気地熱域であり、その後地熱域の広がり大きな変化は認められません。
- ・図の破線黄色囲みの領域が、以前から地熱の高まりがみられる山頂北部の噴気地熱地帯です。地熱域の広がり大きな変化は認められません。

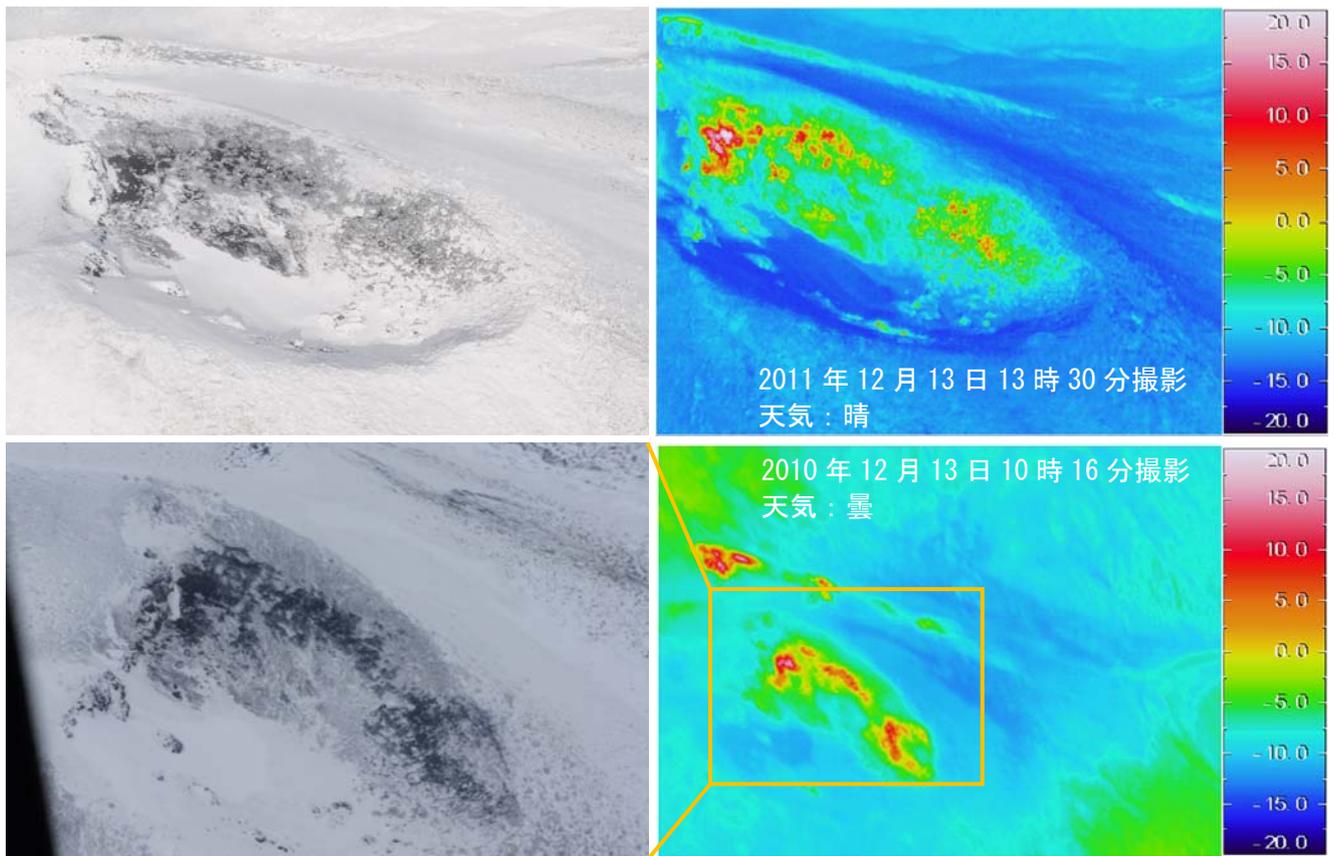


図 6 秋田駒ヶ岳 女岳南東火口の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）
 上図：2011年12月13日撮影 下図：2010年12月13日撮影
 前回（2010年12月13日）の上空からの観測と比べて、特段の変化はありませんでした。

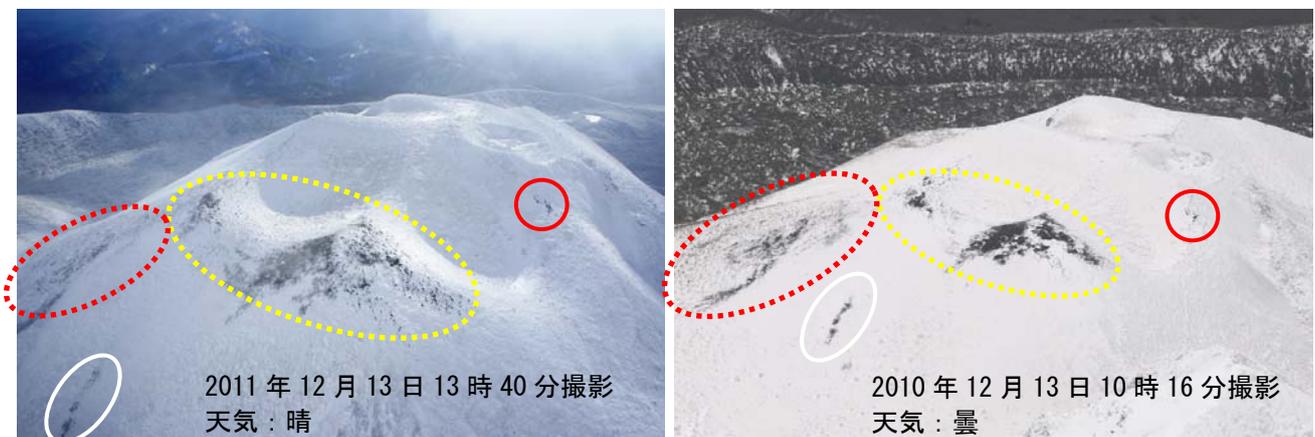


図 7 秋田駒ヶ岳 女岳北西斜面の融雪域の可視画像
 左図：2011年12月13日撮影 右図：2010年12月13日撮影
 図の実線赤丸が、2010年10月の現地調査で噴気を確認した箇所で、前回（2010年12月13日）の上空からの観測時と同じ個所で融雪域が確認されました。
 ・図の破線赤色囲みの領域が北東斜面の噴気地熱域です。
 ・図の実線白色囲みの領域が北斜面の噴気地熱域です。
 ・図の破線黄色囲みの領域が山頂北部の噴気地熱地帯です。



図 8 秋田駒ヶ岳 女岳山頂付近の融雪域の可視画像（2011年12月13日撮影）
 図の実線赤丸が、2010年10月の現地調査で確認した山頂付近の地熱域で、今回、地熱によると考えられる融雪域を確認しました。

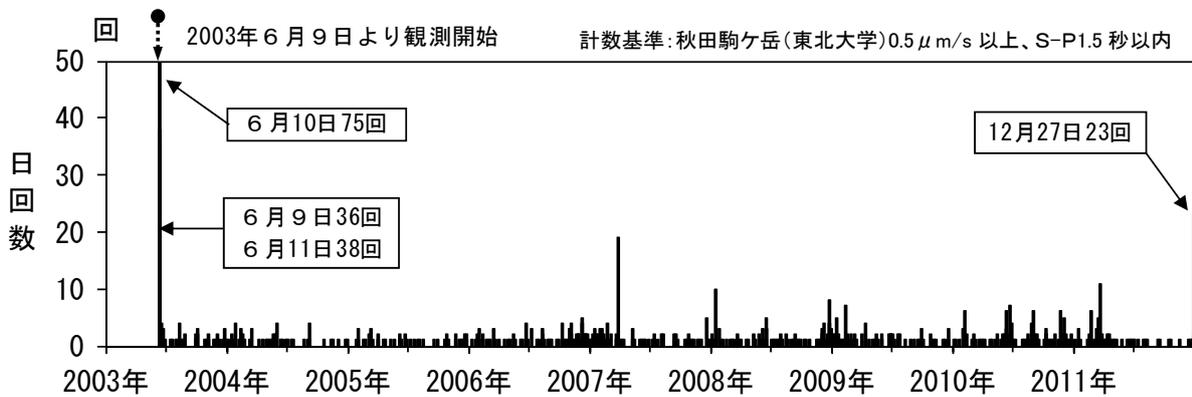


図 9* 秋田駒ヶ岳 日別地震回数（2003年6月～2011年12月）

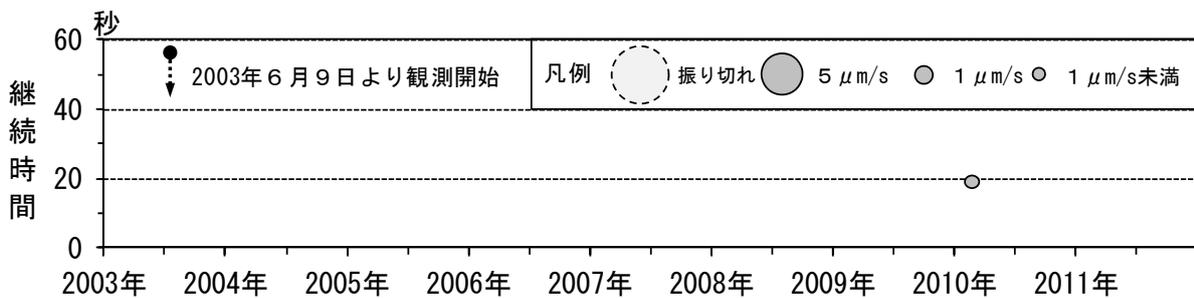


図 10* 秋田駒ヶ岳 微動の継続時間と上下動最大振幅（2003年6月～2011年12月）
 東北大学秋田駒ヶ岳観測点による。

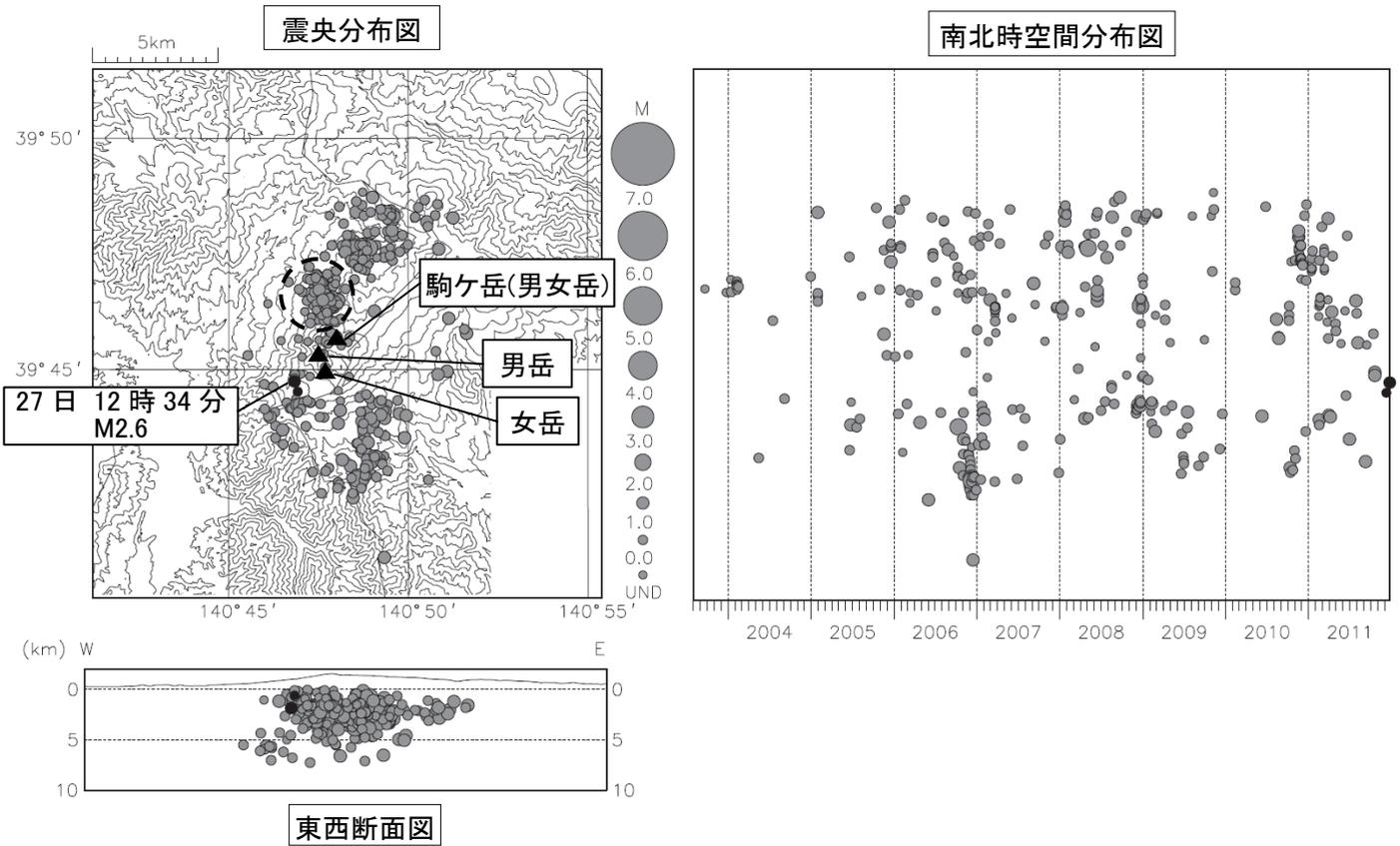


図 11※ 秋田駒ヶ岳付近の地震活動 (2003 年 8 月～2011 年 12 月)

● : 2011 年 12 月 ● : 2003 年 8 月～2011 年 11 月

震源分布図中で黒の点線で囲まれた範囲は、2003 年 6 月の活動範囲を示しています。

M (マグニチュード) は地震の規模を示します。